杉坂（すぎさか）　達男（たつお）　議員

家畜伝染病自衛防疫組合の再編整備と機能強化について

今春、宮崎県において発生の家畜伝染病口蹄疫は４か月を経過した８月末にようやく終息宣言がなされたが、これまでの家畜衛生に対する問題意識の高揚と防疫対策が喫緊の課題として残された。

現在、各市町村単位に組織されている家畜伝染病自衛防疫組合の本町における活動の実態はどうか。

また、今後の組織整備や機能強化は急務と思うがどうか。

町長　本町での活動は、畜産農家の畜舎や住宅周りの消石灰散布など消毒の徹底や、関係者以外の農場内への立入制限を呼びかけ、消石灰や消毒薬の無料配布、役場庁舎や主な公共施設、農協事務所などに消毒マットを設置し、畜産農家に出向く関係者の車両や靴の消毒の励行を行っている。

組織としては、昭和49年に発足し、家畜伝染病の予防接種事業の実施を主たる活動としている。

組織体制は、町内の畜産農家、町や農協など関係団体を網羅した組織となっている。

啓発稼働を自防組合として行っているが、まだ十分でないことは認識している。農業者の方が自防組合において議論の中に一緒に入ってもらい、今後どうしていくかを真剣に考えていくとともに、さらなる衛生管理に関する意識啓発に努め、防疫車や消毒設備等の活用などのＰＲ活動を行いたい。

公共施設に設置している消毒マット

高規格幹線道路帯広・広尾自動車道の整備計画と影響について

高規格道路帯広・広尾自動車道の整備については、本町忠類地域の事業着手が間もなくと聞くが、整備後の予想される影響についてはどのようなことが考えられるか。

それらへの対応や、とりわけ現在の苗畑が用地の対象となっているため、今後の事業に及ぼす影響と事業の将来性について伺いたい。

どんとこい村まつりでにぎわう
忠類道の駅周辺

町長　農水産物の輸送を初め、家畜搬送車の利用や安全に短時間での救急搬送が可能になるなど、人、物の流れが活発化する効果が期待される。

高規格道路整備後の、道の駅周辺の集客アップを図る取り組みに努め観光振興をどうするか、忠類地域の中でそれをどう生かし地域振興を活性化していくか、早め早めに検討していきたい。

苗畑事業については、用地が買収されるため、育苗業務への影響は避けられないと認識している。

忠類育苗センターは、忠類地域に欠かせない雇用の場であるため、代替地を確保し、育苗業務を継続していきたいと考えている。

忠類育苗センター